



地域資源を掘り起こし磨き上げる 「やまなし」を高付加価値化

リニア中央新幹線の開業を見据え、山梨をチャンスと期待があふれる場所にしていくためには、本県の地域資源の「上質さ」を多くの方に伝え、主力産業の「ブランド力」を上げていくことが必要です。

新たな時代に対応する技術を積極的に取り入れながら、既にある地域資源を掘り起こし、磨き上げて「ハイクオリティやまなし」の発信を強く進めていきます。



「やまなし」をテストベッドの聖地へ

リニア開業により訪れる本県経済への大きなチャンスをつかむため、リニアがある山梨の目指す姿を示し、その実現に向けた指針として「リニアやまなしビジョン」を令和2年3月に策定しました。このビジョンに基づき、本県の地域特性を生かしたあらゆる最先端技術の実証実験を行う「テストベッドの聖地」となるべく取り組んでいます。



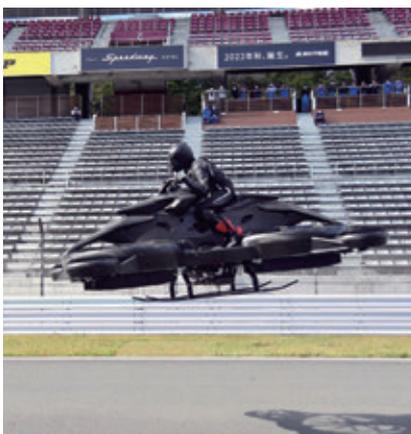
30分程度飛行でき、村内5カ所のスタンドへの配送が可能

昨年9月に、最先端の技術やサービスを有するスタートアップ企業などが県内で行う実証実験を全面的にサポートする「TRY!YAMANASHI!実証実験サポート事業」を開始しました。そこで採択された8社は、2月下旬まで県内各地で実証実験を行っています。

その中の一社で、新しい物流の形により過疎地域の課題解決を目指す株式会社エアロネクストは、小菅村

を拠点に、ドローンを活用した物資運搬の実証実験を行っています。昨年11月からは、住民が専用アプリを使って300ある食料品や日用品の中から商品を注文すると、ドローンが自宅近くのスタンドまで配送する取り組みを、本格的に始めています。

その他、人工知能(AI)を使った路線バスの乗客安全監視システムの実証実験や、災害時などでも活躍が期待される「空飛ぶバイク」の社会実装に向けた研究開発など、テストベッドの聖地化を目指して、新たな付加価値を生み出す未来の技術を支援していきます。

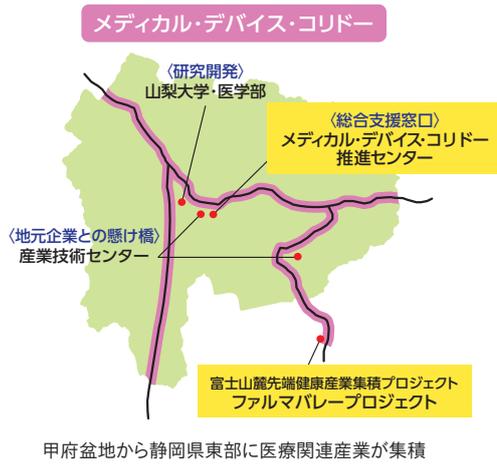


災害時などでも活躍が期待される「空飛ぶバイク」

医療機器産業を集積し 基幹産業へ

本県の主力産業である機械電子産業の高い技術力や立地特性を生かして、今後も成長が期待される医療機器関連分野を新たに本県をけん引す

る産業に育てるとともに、甲府盆地から静岡県東部の医療産業集積地「ファルマバレー」までを結ぶ一帯に医療機器関連産業を集積する「メディカル・デバイス・コリドー構想」の実現を目指しています。



実現に向けて令和元年12月に静岡県と連携協定を締結、令和2年3月には「メディカル・デバイス・コリドー推進計画」を策定し、この計画に基づき6月に専門支援機関「メディカルデバイス・コリドー推進センター」を甲府市に開設しました。センターでは、医療機器に精通した専門職員が研究開発に加え、部品・材料供給による参入支援を積極的に展開した結果、新規契約や受注増加に結び付くなど成果が着実に上がっています。この取り組みに関連し、昨年3月に静岡県のふじのくに先端医療総合特

区に甲府市や富士吉田市などの山梨県内7市町が加わることが国から認められました。加入の効果を最大限に発揮するため、両県の関連機関が一体となって広域的な支援を行っています。



今後もセンターを核とした地域企業の支援、医学部を擁する山梨大学と連携した専門人材の育成、意欲のあるスタートアップ企業の育成を図るなど、構想の実現に向けて取り組んでいきます。

**脱炭素化に向け新たな
グリーン水素製造システムを
山梨から世界へ発信**

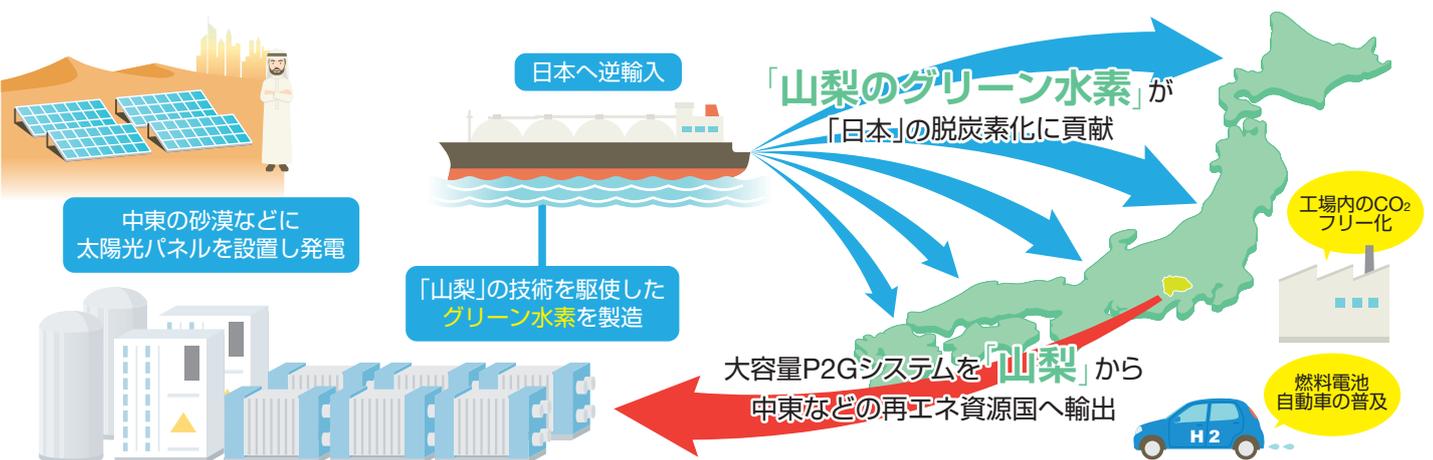
県では民間企業と共同して、太陽光発電などの再生可能エネルギーの電力と水からグリーン水素を製造

する、パワー・ツー・ガス(P2G)システムの開発に取り組んでいます。グリーン水素は、P2Gシステムによって水を電気分解して造られ、燃やしても二酸化炭素を排出しないことから、脱炭素社会の実現に向けた究極のエネルギーとして注目を集めています。

昨年6月からは、甲府市の米倉山で製造したグリーン水素を、県内の工場やスーパーマーケットでCO₂フリーの蒸気や電気として利用する社会実証を、全国に先駆けて開始しています。また、国のグリーンイノベーション基金事業第1号案件として、P2Gシステムの大容量化の研究を進めたり、日本初のP2G事業会社を東京電力ホールディングス、東レと共同で設立したりするなど、P2Gシステムとグリーン水素の利用拡大に向けた事業に取り組んでいます。

今後は、国内の化石燃料の消費量が大きい工場などへのP2Gシステム導入を進めるとともに、年間を通して太陽光が降り注ぎ、広大な砂漠がある中東諸国などの再生可能エネルギー資源国においても、こうした仕組みの幅広い展開を目指しています。

本県が培ってきた技術開発の成果を生かし、P2Gシステムの国内外への展開や、新たな水素エネルギー産業の創出を目指していきます。



農畜水産物の独自ブランド 「おいしい未来へ やまなし」

本県は良質な水や長い日照時間、豊かな土壌に恵まれており、高品質な農畜水産物を多く生産しています。コロナの感染拡大などの厳しい環境下でも、生産者や本県農業に携わる方々の努力が実を結び、令和2年の農業生産額はその前年を約20億円上回り、1000億円台を回復しました。それに伴い、モモやブドウなど県産果実の輸出額も増加し、初めて10億円を突破しました。

高品質だけでなく、農業分野から脱炭素化に取り組むなど、おいしさの先を行く県産農畜水産物の魅力を消費者目線で伝えるため、県独自のブランド「おいしい未来へ やまなし」を立ち上げました。対象となる農畜水産物にはロゴマークが使用できます。今後生産者の所得向上や国内消費、海外輸出のさらなる拡大に向け、この新ブランドのプロモーション活動を積極的に実施していきます。

地球温暖化抑制に貢献する 4パーミル・イニシアチブ

土壌に炭素を貯留することで、大気中の二酸化炭素濃度を低減させ、地球温暖化を抑制させる国際的な取

り組み「4パーミル・イニシアチブ」に、本県は令和2年4月から日本の地方自治体として初めて参加しています。本県が誇る果樹栽培で発生する剪定枝を炭化させ、土壌に貯留することで、二酸化炭素の抑制に貢献するほか、その畑で作られた果実を環境に配慮した農産物として認証する制度を設けてブランド化を図り、農産物の高付加価値化を目指しています。またこの取り組みを全国展開し、日本の農業全体で温暖化抑制に積極的に取り組んでいくため本県が提案した、4パーミル・イニシアチブ推進全国協議会が昨年2月に発足しました。今後も全国の旗振り役として脱炭素社会の実現を目指していきます。



ブドウの剪定枝からできたバイオ炭

快適な環境で家畜を育てる アニマルウェルフェア

県では家畜の快適性に配慮した環境で育てた畜産物のブランド化に向け「アニマルウェルフェア」の認証

制度を全国に先駆けて創設しました。アニマルウェルフェアとは「動物福祉」「家畜福祉」とも訳され、鶏を地面に放して飼う平飼いや牛の放牧など、家畜が健康的に育つ良好な環境で飼育することです。



平飼いすることで健康的な鶏を育てる

認証制度の創設に当たっては、アニマルウェルフェアを導入し、全国のトップランナーといえる県内の農家などと検討を重ね、牛や鶏、豚についてそれぞれの飼育面積や飼育環境などの基準を10項目設定しました。講習会や指定農場での研修を受けた上で、認証基準を満たす実践農場をそれぞれの達成度に応じた3段階で認証します。その段階ごとにロゴマークを付与することで、消費者が商品を手取る際にも、新たな価値の付いた商品を選んでもらえるよう、認証制度の周知を図っていきます。

スマート農業で生産性を向上

農林業を持続的な成長産業として発展させ、従事する方が豊かさを実

感するためには、情報通信技術（ICT）などを活用した高付加価値な農林業の推進が不可欠です。

農業においては、スマートグラスを着用すると、ベテラン農家の技術を学習したAから摘粒などの作業内容の指示を受けることができる技術を開発しました。新規就農者らの技術習得を効率的に行うことができることから、新たに始める方の後押しとなります。また、農作物の生育環境をセンサーで感知し、高生産の要因を解析することで、生産性の飛躍的向上を目指す「データ農業」を推進していきます。

林業においても、ICTなどの先端技術を活用し、伐採や森林整備の生産性・安全性を向上させる「スマート林業」を推進していきます。また、本年4月に農林大学校に開講する「森林学科」では、スマート林業の実現に必要な高度な知識や技術を身に付けた人材を育成していきます。



スマートグラスを装着して摘粒するブドウを検出

**食で観光客を魅了する
「美食王国やまなし」を創造**

本県は約150年続くワイン造りの歴史と伝統があり、今もなお日本ワイン生産量、ワイナリー数が日本一を誇る「ワイン県」です。ワイン県宣言をきっかけに周遊観光や地場産業の活性化を図るべく取り組んできました。

中でもワインとの相性が良い「食」は重要であり、県産の高品質な食材を活用したり、掘り起こしたりしながら、ワインと食の相乗効果により、食事が目的の旅行となる「美食王国やまなし」を目指していきます。ワインに合う食材として本県のブランド魚「富士の介」や、天然資源のニホンジカを食材として有効活用する「やまなしジビエ」などがあります。

この他、ブドウの新品種「甲斐ベリー7」は市場に出るまで数年かかりますが、日本を代表する品種への成長が期待されます。「美味しいものを食べるに山梨に行こう」と思う本県のファンを獲得していきます。

また、国が地域ブランドを保護する地理的表示（GI）制度で、本県が全国で初めて1つの県で「ワイン」と「日本酒」の2つの酒類で指定されたことを受け「美酒美県やまなし」としても認識されるよう、積極的にPRしていきます。

美食王国やまなし 「美味しいものを食べるに山梨に行こう」

日本酒



GI「山梨」の認証を受けた日本酒
(提供:山梨県酒造協同組合)

富士の介



キングサーモンとニジマスを交配させて誕生した富士の介

やまなしジビエ



やまなしジビエ(シカ肉)

甲斐ベリー7



県が開発した新品种・甲斐ベリー7

**観光資源に新しい価値を
旅行者に選ばれる地を目指す**

コロナの影響で落ち込んだ観光需要の回復は喫緊の課題です。

県では、飲食店や宿泊施設、観光施設などの感染症対策に県がお墨付きを与える「やまなしグリーン・ゾーン認証」を展開し、旅行の楽しみに加え、安全安心という付加価値を提供しています。コロナ禍で約半数の学校が修学旅行の中止や延期に追い込まれる中、昨年度の日本修学旅行協会による調査では、本県が中学校の修学旅行先として京都府に次いで、奈良県と並ぶ全国2位に選ばれました。これが一過性にならないよう旅先でも安全安心を提供する「山梨モデル」を展開していきます。



最先端モビリティ「Piimo(ピーモ)」による観光の実証事業の様子

その他、複数の公共交通や移動サービス、観光施設などを最適に組み合わせ、検索から決済までを一括で行う「やまなし観光MaaS」の県内展開を目指し、昨年11月に行った昇仙峡などの観光地での実証事業を

踏まえ、今後も旅行者が安全安心で快適に山梨を楽しむことができる体制を整えていきます。

文化芸術の振興で活性化

本県は、世界文化遺産である富士山をはじめ、文化芸術の源泉となり得る豊かな自然環境を有するほか、美術館などの文化施設の数が人口当たりで全国トップレベルであるなど、文化芸術の創造拠点としてのポテンシャルが高い地域といえます。

こうした本県の強みを生かし、文化芸術の振興を通じた地域活性化を図るため、芸術家と協働したアートプロジェクトの開催や、県立美術館と峡北エリアの3つの私立美術館を拠点とし、自然や食も総合的に体験できる地域ならではの文化観光体験を提供するなど、地域に根差した文化の魅力新たな価値として創造・発信していきます。



葛飾北斎 富嶽三十六景 凱風快晴
(山梨県立博物館蔵)